

展示用の電子顕微鏡が故障し、公開を中止していた県子ども総合科学館に新たな電子顕微鏡が寄贈され、二十二日、福田富一知事も出席し贈呈式が行われた。

寄贈したのは宇都宮市問屋町に本社のある科学機器販売会社「ローラン」(羽石和樹社長)。同社が創立六十周年記念で贈ったもので、顕微鏡は同社が取り扱っている日立製の製品。最高倍率は一万倍で、価格は約五百万円と云う。

ミクロの世界を1万倍に。。

同科学館開館時の一九八八年に導入された初代電子顕微鏡は昨年二月に故障。旧式で交換部品も入手難なため、展示スペースに

「お休み中」と張り紙がされた状態が続いていた。

「子どもたちに普段見ることができない世界をよく見てほしいかっ

電子顕微鏡を 県科学館に寄贈

「子どもたちに普段見ることができない世界をよく見てほしいかっ

眺め、福田知事は「今

た」と話し、福田知事は「県の将来を担う子どもたちの科学教育の面からも極めて重要」と謝意を述べた。

デモンストレーションでは福田知事らがモニターに映った髪の毛

「でっかいなあ」と興味深そうにモニターを

「これがアリ？」と興味深そうにモニターを

「これがアリ？」と興味深そうにモニターを

「これがアリ？」と興味深そうにモニターを



寄贈した電子顕微鏡を前に感謝状を受け取るローランの羽石社長(右) 22日午前11時10分、県子ども総合科学館